

勿忘(わすれな)の鐘 三・一一法要

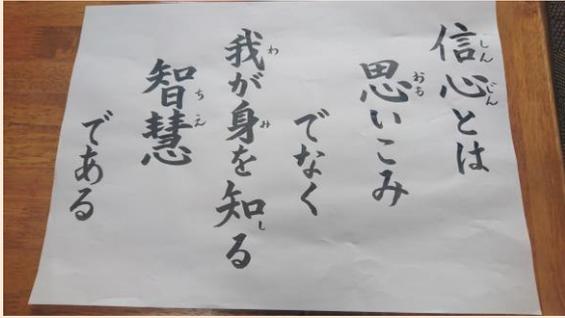
INFORMATION

勿忘(わすれな)の鐘

日 3月11日(月)  
 於 徳泉寺本堂  
 14:46 撞鐘  
 勤行  
 茶話

真宗大谷派各寺院では、三月十一日東日本大震災の発生時間に合わせ「忘れること勿(なか)れ」と鐘を撞(つ)き、法要を行っています。あの日あの時に手を合わせましょう。

今月のことば



私が信じる心には、正しい正しくないという自分の思いや判断があります。信心とは仏さまのお心をいただくということ。仏さまが私たちを信じてくださっている。その私はどんな私であるのか、問いとなってくるのでしょうか。

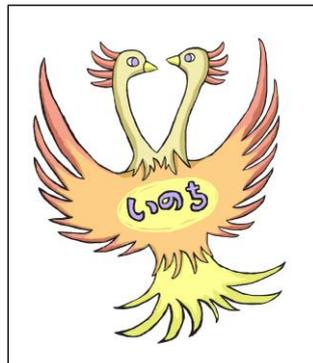
境内の花々



同朋会コーナー

二月同朋会より

住職法話抜粋『共命之鳥(ぐみょうしちよう)』



頭が二つ、身体が一つの鳥がおりました。二つの頭は仲が悪くお互い相手のことが憎らしく思っておりました。あるとき、相手がいなくなればよいと思つて毒を盛りました。すると相手の頭は死にましたが身体が一つのため、なんと毒を盛つた方の頭の鳥も死んでしまいました。

このように私たちは自分の思いと違う意見を受け入れず、お互いに正義をぶつけあい、時には生きる場を奪い合います。しかし忘れてはいけません。すべては同じところに立って生きると生きたいと願う一つの命なのです。

前任職法話一部抜粋『歎異抄 まとめ』より

私たちは自分の思い通りにしたいという心、自我でいっばいになっています。そして、しばしば思い通りにいかない現実にあつて悩み苦しんでいます。そのとらわれている私の思いに、「自我いっばいの私」ということに気づいたとき、それに振り回されず、あるがままの自分を生き生きと生きていける世界が開かれてきます。しかし、その気づきは自分からは出てきません。お念仏を通しての阿弥陀仏の呼びかけによって初めて気づかされるのです。

三月の同朋会

日にち 三月九日(第二土曜)  
 時間 十三時~十六時  
 場所 徳泉寺同朋会館  
 持ち物 数珠 勤行本  
 茶菓代 五〇〇円  
 どなたでも参加できます

『徳泉寺報』後記

東本願寺出版の月刊誌『同朋』3月号にNPO法人「使い捨て時代を考える会」相談役の植田 劭さんとの対談が掲載されました。震災以後の自分と社会のあり方をみつめる機会をいただきました。